

兵庫・山野里四ツ日遺跡
やまのさとよつか

- 1 所在地 兵庫県赤穂郡上郡町山野里四ツ日
- 2 調査期間 二〇〇四年(平16) 一〇月―二月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
- 4 調査担当者 山田清朝
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 室町時代前半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(上 郡)

山野里四ツ日遺跡は、千種川中流域に位置し、千種川の支流をなす安室川左岸の完新世段丘面上に立地する。県道姫路上郡線のバイ

パス工事に伴い、八八二㎡を調査した。

その結果、室町時代前半の柱穴群と旧河道を検出し、旧河道内から木簡一点が出土した。旧河道内からは、ほかに多量の備前焼・土師器などの土器類をはじめとして、軒丸瓦などの瓦類、

木製品、金属製品が出土している。旧河道は、室町時代後半にはほぼ完全に埋没している。

木簡は、旧河道の最下層から出土した。同じ層のほぼ近接した位置で、「法□禪寺」という文字で飾られた軒丸瓦が出土している。

二文字めは「雲」という文字があつたものと考えられ、この瓦は、赤松円心により建武四年(一三三七)に創建された法雲寺の屋根を飾ったものである。よって、木簡を含む旧河道最下層出土の遺物の年代は、この創建時に近い時期と考えられる。

8 木簡の积文・内容

(1) 「>咄天罡(符録) 急々如律令」

343×41×5 033

上端の一部をわずかに欠く以外、ほぼ完存する。上端の左右に切り込みを入れ、下端を尖らせている。符録より下側の墨書の遺存状況は、良好ではない。

(山田清朝)

